

プロジェクト紹介

訪れる人々に快適、安全、そして居心地の良い空間を

～上野駅公園口周辺エリアの再整備プロジェクト～

茂手木 功

MOTEGI Isao
株式会社片平新日本技研
交通都市計画部
部長補佐



はじめに

都立上野恩賜公園、通称上野公園は東京の都心部に位置する歴史ある公園であり、国立科学博物館、国立西洋美術館、東京文化会館等の文化施設や恩賜上野動物園が立地し、桜の花見、数々のイベント、日常的な散歩等で多くの人々が訪れます。

その上野公園をより魅力的な場としていくために実施されたJR上野駅公園口周辺エリアの再整備プロジェクトについてご紹介します(図1)。

上野公園の再整備

2008年、上野公園の将来像と概ね10年後を見据えた施策の方向を示した『上野公園ランドデザイン検討会報告書』がとりまとめられました。これを踏まえ、翌年には1992年3月に策定された『上野恩賜公園

再生基本計画』の見直しが行われました。上野公園の再整備はこの再生基本計画に基づいて約10年間にわたって進められ、公園口周辺の再整備プロジェクトもこの一環として行われました。

関係三者による合意

2009年の基本計画の見直し後、東京都、台東区、JR東日本により検討が進められ、2014年度には三者間で公園口エリア整備に関して、主



図1 プロジェクト位置図(出典:『JR上野駅公園口周辺整備について』東京都建設局、台東区都市づくり部都市計画課、東日本旅客鉄道株式会社に筆者が部分的に加筆)

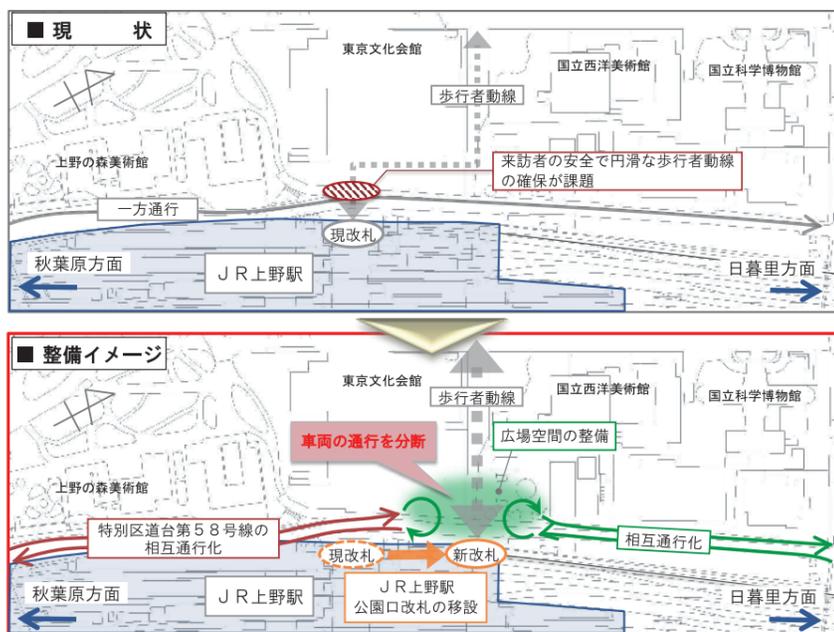


図2 公園口周辺の課題と対応方針(出典:『JR上野駅公園口周辺整備について』東京都建設局、台東区都市づくり部都市計画課、東日本旅客鉄道株式会社に筆者が部分的に加筆)

に以下の内容が確認されました。

- ・ JR上野駅公園口改札の移設
- ・ 上野の顔となる広場づくり
- ・ 公園口改札前を横切る一方通行の前面道路を遮断し、相互通行化
- ・ 遮断した前面道路端部にロータリーを整備

整備前は、JR上野駅公園口改札の利用者は前面道路を横断する必要がありました。しかし、待ち合わせや信号待ちの滞留空間が十分でなく、危険な信号無視も散見されました。

この合意内容は、公園口周辺の空間的な価値や魅力を高めると同時に、このような状況を背景に公園利用者の安全な歩行者動線の確保等も狙いとしたものでした(図2)。

着手後の最初の課題

我が社は2015年度から4年にわたり東京都の上野恩賜公園公園口再整備にかかる基本設計及び実施設計の業務、台東区の交通計画検討、区道設計等の業務を受注して検討を実施してきました。その際、ランドスケープを専門とする株式会社爽環境計画や、株式会社清水達也ランドスケープにも協力頂きま

した。

公園口周辺の再整備プロジェクトは都市公園の計画から設計、工事に至るまでの業務ですが、JR上野駅の改札口前での公園地内ロータリー整備は駅前の交通機能空間の整備という性格も持っています。また、一方通行の前面道路の遮断と相互通行化にあたっては、接続する交差点や周辺道路への影響も懸念されました。そのため、検討はロータリー整備のための空間計画や交通計画の課題への対応から着手することとなりました。

前面道路の遮断とロータリー整備

公園口改札前を横切る前面道路は、南の中央通りから北の都道452号線まで至る一方通行の道路です。この前面道路を新しい改札口の前で遮断し、その端部に南北2つのロータリーを整備します。検討のポイントは以下の3点でした。

①歩行者空間

新改札口前に憩い、滞留のための広場空間を確保します。また上野公園方面だけでなく、南北方向とのアクセスも重視して歩行者空間を確保します。

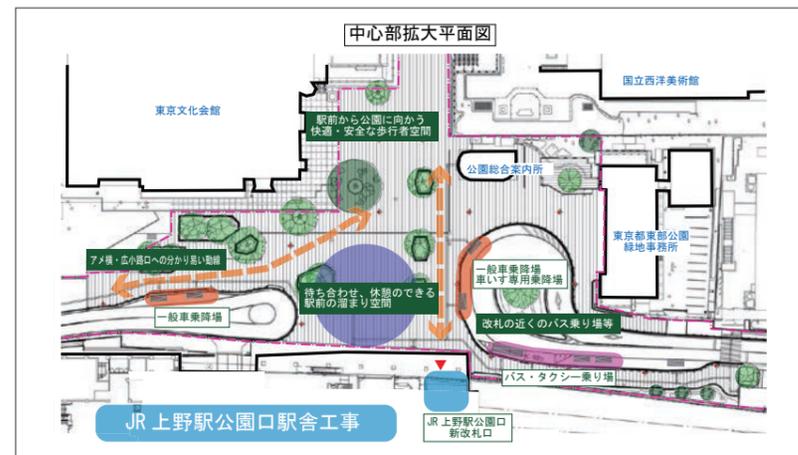


図3 公園口周辺の空間計画(出典:『JR上野駅公園口周辺整備について』東京都建設局・台東区に筆者が部分的に加筆)

②交通機能配置

旧改札口付近にあったバス・タクシーの乗降場をロータリー内に配置します。新改札口との関係も考慮し、鉄道との乗り換えの利便性を確保します。

③近隣施設への影響

東京文化会館ではコンサート等が開催されます。自動車の走行位置が建物に近づき、騒音や振動が大きくなるよう配慮します。

実は、関係三者の合意を踏まえ、当初は以下のような条件で検討を開始しました。

- 旧改札口前にあったバス・タクシーの乗降場や観光バス向けスペースを南側ロータリーに配置
- 北側ロータリーは極力コンパクトにして既存の広場は存置

しかし、①～③を具体化するためには、この条件での実現は困難と判断しました。特に南側ロータリーが大きくなりすぎ、歩行者動線を阻害する点が問題となりました。また、空間計画における検討の自由度を高めるため、既存広場の存置にこだわらずに検討を進めました。早い段階で検討条件変更の判断に踏み切れたことは幸いでした。

ロータリーを含む新改札口前の空間計画の検討成果は図3に示す通りです。新改札口前には広場を設けるとともに、植樹桝には腰をかけられる仕掛けを設え、待ち合わせや滞在にも利用できます。前面道路が通っていた整備前と比べると最も大きな変化といえます(写真1、2)。

バス・タクシーの乗降場は、新改札口から出た人がすぐに利用できる北側ロータリーに配置しました。また、南側ロータリーはできるだけコンパクトにし、東京文化会館との間に十分な歩行者空間を確保しました。



写真1 新公園口改札前付近（整備前）



写真2 新公園口改札前付近（整備後）

交通状況の把握と検証

整備前、前面道路を利用する自動車交通は以下に大別できました。

- ・沿道の駐車場を利用する交通
- ・公園口改札周辺で送迎等のために停車する交通
- ・バスやタクシー等の公共交通
- ・通過するだけの交通

このうち、4つ目の通過交通は前面道路を遮断した後にはなくなるので、道路交通量は大きく減少しますが、通過できずに迂回する交通が周辺の交差点や道路に負荷を与える可能性があります。

そのため、まずは調査を実施して交通状況を把握しました。前面道路及び周辺の道路、交差点の交通量、旧改札口付近の停車状況、駐車場の出入交通量等を調査、また前面道路の流入部等でナンバーを読み取り、自動車の行き先を確認するナンバープレート調査を実施しました。

これらの調査から、前面道路を遮断した場合の通過交通の迂回ルートを検討し、道路に与える影響を検証しました。また、一方通行から相互通行に変更することで、前面道路に接続する交差点に与える影響も検証しました。その結果、周辺の道路や交差点に過度な負荷がかからないことを確認しました。

これらの結果を地元住民の方々



写真3 公園口周辺から上野公園中心部方向を臨む。東京文化会館（左）、国立西洋美術館（右）

にも説明したことで、プロジェクトに対する理解を得ることができました。また、交通管理者である警視庁との協議でも検証結果を説明しながら検討を進めました。

広場の空間デザイン

空間計画や交通計画に関する検討とともに、上野公園の新しい顔として相応しい空間デザインの検討を実施しました。

このプロジェクトに取り組んでいる間に一大トピックがありました。2016年に国立西洋美術館本館が「ル・コルビュジェの建築作品」として世界文化遺産に登録されたので

す。元より空間デザイン面では国立西洋美術館と東京文化会館との関係性を重視していましたが、その重要性が一層高まりました。

まず、上野公園のエントランス空間に相応しい、風格を感じさせる広場を目指しました。そして、多くの人々が行き交う駅前空間として居心地が良く、安全に待ち合わせることができるスペースを確保します。さらに、国立西洋美術館や東京文化会館との調和、建築間の連続性を阻害しないこと等を重視しました。

具体的なデザイン展開について、以下にいくつか紹介します。

舗装は全体を風格のある御影石



写真4 上野駅の駅舎2階から上野公園方向を望む



写真5 イチョウの足下のプランターベンチ



写真6 整備前の前面道路



写真7 整備後の南側ロータリー

舗装としました。国立西洋美術館と東京文化会館の二つのモダニズム建築及びその外構空間に違和感なく調和し、連続性や一体性に配慮したものです。舗装自体が強く自己主張しすぎない素材と色彩にしました（写真3）。舗装では御影石の平板をプラスチックレール上に配置するエヴォストーン工法を採用しました。この工法は施工期間が短く補修時の交換が容易で、施工性やメンテナンス性に優れます。また、外部からの負荷をガイドレールで分散軽減し安定性に優れる特徴を持ちます。

夜間照明は「歩行者動線を確保するために本数を減らすこと」と「この場に相応しいデザインとすること」を目指しました。その結果、高さ8m

程度のダウンライト照明とし、均質な照度を確保、周辺建物の明かりとも干渉せず、歩行者へのグレア（良好な見え方を阻害する「まぶしさ」）がないようにしました。照明柱や灯具は写真4をご覧くださいと分かるように、目立たずすっきりとしたデザインです。また、国立西洋美術館前の通路部分は、高さを5m程度に抑えることで、同施設からの眺望に干渉しないようにしました。

広場利用者が滞在するための仕掛けとしてプランターベンチを採用しました。新改札口前のイチョウの木の下、東京文化会館前の植栽スペース等に設けることで多くの人々が休憩や待ち合わせの場として利用しています（写真5）。

成果を実感

2020年3月に暫定供用（改札移転と前面道路遮断）が始まり、2021年初頭には全ての工事が完了しました。

コロナ禍ではありますが、多くの方が新公園口改札を利用して上野公園を訪れています。広場で行き交う人々の様子を見ていると、「行きやすくなった」「道路がなかった?」「広々している」という声が入ってきました。交通環境を抜本的に改善して得られた成果を実感した思いです。

新型コロナウイルスに対する不安は依然として払拭されていませんが、無事終息した暁には是非上野公園に足をお運び下さい。